

研修会報告

令和2年2月12日(水)

文責：佐藤 美砂

研修会名：一般検査部門研修会

テーマ：「便潜血検査・尿路感染症・寄生虫検査を学ぶ」

開催日時：令和2年2月9日(日) 13:30～16:40

会場：仙台市立病院(本院3階第2講義室)

[プログラム]

講演1：「便潜血検査と大腸がん検診について」

講師：栄研化学株式会社 マーケティング一部一課 飛 泰志 先生

講演2：「細菌検査から見た尿路感染症～知っておくと一般検査で得する微生物検査の基礎」

講師：国立病院機構 仙台医療センター 佐藤 哲哉 技師

講演3：「寄生虫検査の基礎～突然！寄生虫の依頼が来たらどうしよう！」

講師：登米市民病院 高橋 治 技師

日臨技生涯教育研修制度：専門20点

参加者：会員52名、非会員3名、講師3名、実務員5名 計63名

[内容]

講演1は、大腸がん検診の目的や重要性、便潜血検査について測定原理・正しい採便方法・検体保存方法など、丁寧にご講演をいただきました。

大腸がんは近年増加傾向にあり、死亡数も多いが、早期発見すれば5年生存率の高いものなので、健診の受診率を上げることが課題であることを学びました。我々検査技師が便潜血検査・大腸がん検診について熟知することが、課題解決の1歩になるのではと思いました。

講演2は、一般検査で重要な疾患の一つである尿路感染症を細菌検査からどのように見ているかを学びました。尿路感染症についての分類や診断方法、微生物検査の流れや原因菌のグラム染色像などについてのご講演をいただきました。尿路感染症についてさらに、知識が深まったと思います。

一般検査と細菌検査の情報を共有することで、より臨床に有益な検査結果を報告することができると感じました。

講演3は、身近なところで起こり得る寄生虫感染症についてご講演をいただきました。日常的に検査を実施していないので、突然依頼が来て困ってしまうのが寄生虫検査です。検査を行うには患者情報(食事・渡航歴など)が重要で、寄生虫の生活史を理解して検査方法を選ぶことが必要であることを学びました。近年、地球温暖化・グルメ(ジビエ料理)・海外渡航者の増加などで寄生虫感染症が問題となることがあります。今後も学んでいく必

要がありました。